

随 筆

私の文学逍遥

小林 英敏

私は文学部志望でしたが父親とは違って文学志望ではなく、歴史志望でしたので小説をそんなに読んでいたわけではありません。世界にはプルーストを読んだ人とこれから読む人の2種類の人間がいるといわれています。私が絵本でない小説を初めて読んだのは小学校3年のときでした。隣の家の留守番を頼まれたときに読んだバーネットの秘密の花園とモーリスルブランのルパン三角金でした。小学校5年生の時に転校した関東学院の図書館が大きくて大好きになりました。読んだのはフェアブル昆虫記、シートン動物記など子供らしい本に加えて、その頃から興味を持ち始めた栄花物語、大鏡など歴史関係の本でした。漢文は読めませんでしたので日本史中心でした。漢文は高校で初めて読むことになります。図書カードに記載された借りた本のリストを増やすのがうれしくてついに学校一になりました。司書の先生から「語りて真実を欠くこと無かりしか」というお言葉と実朝物語という本をいただきました。その頃よく読んだのは小学館の日本の歴史4巻本でした。ほとんど暗記するほど読みました。中学生になったころ中央公論社から世界の歴史ジュニア版と世界文学全集54巻が発刊され、新聞で月一冊配本の宣伝を見た私は親に頼んで注文することになりました。世界の歴史のほうは擦り切れるほど読みました。中国の南北朝に興味を傾いていったのはこのころからです。文学のほうは第一回配本は罪と罰で奥書を見ると昭和38年1月となっています。頑張って読み始めたのですが読み終わりません。月一冊づつどんどんたまって何ともなりません。要するに私には難しすぎたのです。結局この54巻は高校まで順次かつ無事に配本され、半分も読まずに名古屋までもって来ることになります。罪と罰を読み終えるのは大学生になってからです。今も全巻そろって私の本棚にあります。全部読んだわけではありません。読みやすい本と読みにくい本はたしかにあります。中学から高校にかけては小説では下村湖人の次郎物語を繰り返し読んでいます。「白鳥蘆花に入る」なんて中々意味不明な感じでワクワクしたことを覚えています。ヘッセは読みやすく高校時代に楽しく読んでいますがトーマスマンは医者になってから魔の山を文庫本で読むまではどうも苦手な作家でした。男女の機微が

どうかこうとかというのは私にはわかりづらく、もたもたした恋愛ものは苦手です。繰り返し全巻制覇に挑戦していますがなかなか志は達成しません。50年以上の年月を私とともに過ごした本は世界文学全集以外には小学校の校長先生からいただいた讃美歌だけです。聖書はついに本としての形態を失い、2年ほど前に新しく購入しました。高校のころ旺文社の文庫本が発刊され第一回配本が坊っちゃんでした。湘南高校の図書館の入り口すぐに旺文社の文庫本コーナーができたので右端から順に読んでいきました。東洋文庫コーナーもありマルコポーロの東方見聞録、長安の春やミリンダ王の問いなどを讀んだ記憶があります。受験勉強時期でしたのでそんなに纏まった本は讀んではられません。夏休みにまとまって読書するくらいですが一年の時は和辻哲郎の風土と古寺巡礼を二年の時は亀井勝一郎の古代知識階層の形成を讀みました。風土の中の記載でヨーロッパの松はまっすぐ生える、日本の松は曲がって生える。これだけであれば別段なんということもありません。和辻のすごいところは、ヨーロッパでは松はまっすぐなのが自然であり、日本においては曲がっているのが自然なのであると、自然という一見普遍的なものを、真理といってもいいかもしれない、が場所によって変わってくることを平明に指摘しているところである。金子みすゞであれば、みんな違ってみんないいというところかな。ともかく私は声高に（正論）を訴える人々から少し離れていく傾向はもともとの才能でもあろうが、培われたこともあるかと考えている。和辻も勝一郎も時代的理由はあるがどちらも非マルクス主義歴史観であるのは面白いところです。三年の夏休みは受験一色。中学一年から高校三年までの教科書をただひたすら讀みました。学生運動ということも安保闘争も知らずただひたすら受験に向かっていたら東大安田講堂の攻防がテレビで放送され、東大入試は中止。別に東大を受験するつもりも能力もなかったのですが押し出される形で浪人しました。さすがに浪人時代は小説、テレビとは無縁な生活でした。

大学に合格し、下宿も決まって持ってきた本は世界の歴史、京大東洋史、聖書讃美歌、そして世界文学全集でした。入学後2年ほどの教養部時代は史記、後漢書、三国志などの古典と（むろん現代語解説付きの明治書院版など）、古典的な歴史の根底を理解するためのマルクス主義的歴史観の本を讀んで過ごしました。京都大学東洋史学科はお互いにさん付けで呼びあいます。先生と呼ばれるのは宮崎先生ぐらいでしょうか、師匠と仰ぐ宮崎市定先生の 中国南北朝期における土地支配体制は中世的土地支配である、土地生産力と土地の保有制度が権力構造としての政治体制を規定しているのであるから隋唐期までの中国は中世と考えられるという論点。今ではもはや消滅してしまった中国南北朝期の歴

史区分に関する大激論にワクワクしたものです。今から思うと歴史を理解するためにはその時の言葉がわからなくてどうするというので漢文、中国語をもう少し真面目にしておけばよかったかなと今になると思います。語学的才能のない私は岩波全書の漢文入門に何回か挑戦しては挫折を繰り返しました。その後の医学部時代は囲碁と詩とSFにはまってましたが思いのほかにもとまって本を読む時間はなかったです。それでも卒業までに段ボール30箱ほど溜まって東京に持って行けず泣く泣くお別れしました。藤沢秀行の色々な全集、瀬越憲作囲碁全集や新潮文庫の昭和詩人全集をはじめ、絶版になっている本も多く古本屋めぐりして探していますがもう手に入ることはないでしょう。不思議なことに医学部時代はあまり歴史の勉強をしていません。歴史の勉強はかなり時間が必要で短時間の積み重ねではできないためでしょうか。医者になるしかないと半ばあきらめたためかもしれません。

医者になってから医学以外の本を読み始めるのは卒業後13年経った多治見時代からです。通勤に電車を使っていたため、そこそこの読書時間が確保できたのが再開した理由でしょうか。ここで医学論文でも読んでいけば違う人生ですな。通勤の電車の中で主に読んだのは詰碁でした。前田陳爾3部作、橋本宇太郎詰碁中山道などおかげさまでめきめき腕をあげました。初段戦で優勝し、全国大会に招待されたのも二度と味わえない楽しい夢のような経験でした。囲碁以外では小西甚一の古典文法をお読みして平家物語、太平記、史記などの歴史物語の読書が再開されました。若いころ時間をかけて勉強したものは年を取ってからも蘇ってくるというお話は本当だと説得力を持って蘇ります。日本という国について不平不満があるとすれば日本、中国の古典が手に入りにくいということです。古事記、日本書紀は簡単に続日本紀はなんとか手に入りますがそのあとの日本の歴史書である日本後紀、続日本後紀、日本文徳天皇実録、日本三代実録は入手が困難だということです、図書館にはありますが。大鏡はよく売っていますが今鏡、水鏡、増鏡となると全文が（この全文というのが大切に抄録ではだめなのです、ちょうどコンピュータが二番ではだめなように）手に入るかどうか？増鏡は鎌倉時代の基本資料で日本の南北朝形成を語るには必須の文献です。後醍醐天皇が鎌倉幕府を討伐して形成された建武の中興の復古政策とそれに反対する武士団の抗争が南北朝の原因で...、そうなんですが。南朝と北朝の各々の経済的基盤と対立しあう武士団の形成はどのように形成され発展してきたのか、平安期から頻発する悪党に代表される地方の分裂しあう権力構造が鎌倉、南北、室町、戦国期をとおしてどのように変質し統合されて幕藩体制に統合されていったのか。均田法を通して支配する政治体制にどのよう

な矛盾がありどう解決を図ったのか。そもそも何故日本においては大化の改新と呼称されてきている政治変革以降に一定身分以上に天皇首長から付与される制度に寄りかかる形での家内政所政治としての政治権力が形成されてきたのか。大化の改新时期すなわち国の成立に関する書が2つもある国は世界中でも珍しく、古事記と日本書紀を比較対象して読むことのなんと楽しく、夢が広がることか。悪党が歴史書に出現するころの時期を描いた陸奥話記（前九年の役の話）、将門記に描かれた中世民衆の世界の豊かな彩は魅力をたたえて離しません。中国史においても400年続いた漢王朝は数々の政治的、経済的矛盾に直面し崩壊していくわけです。その結果として最終的には隋唐王朝に統合されていくわけですがそれを土地支配という側面からとらえなおしたときにどのような光が見えてくるのか？教科書的には魏晉南北朝と統合されますが北朝の北魏成立以前と以後では政治体制がかなり異なっています。北魏は自ら皇帝と名乗ったのですが、五胡十六国は拓跋部が北魏を立てる前の時代区分ですが、19国があります。これらの国は東晋から王に冊封されて国を建てています。ただの王ではなくかつてに天王（てんおう）と称しています。てんおうどことなく似ていませんか？古代大和朝廷も東晋の跡を継いだ劉宋に使節を送って倭王に冊封されていることになっています。実は日本の古事記、日本書紀と中国の歴史書とは全く一致しません。倭の五王の比定など高校生のころからこんな乱雑な論理で歴史の研究が済むのだったらちょろいもんだなとしか思えないおとぎ話です。大体、弟だと書いてあるのをどう取り繕うと子になるのか。年数も概ね一致するといいますが、劉宋は約50年続くのですが、20年ぐらいの違いは概ね一致としていいのであれば誰でもどこでも一緒だよですね。邪馬台国論争で東は南だ、距離は間違っている。それでしたら私どこへでも連れて行ってあげましょう。その結果遠くは南米からエジプトまで邪馬台国の候補地は広がりを見せています。雄略天皇（倭王武）はまず間違いなさそうですが宋に使いした文章に相当する記事も戦闘した記載もない。万葉集第一首に出てくる長歌の作者と伝承されている雄略天皇と倭王武の勇ましさととはとても似つかわしくないと思うのですが。どうしてそれが間違いなく比定できるのか私ごときものには了解不能です。そもそも古事記、日本書紀には卑弥呼がない。いないどころか中国の記載では卑弥呼、倭の大乱、壹与と続く歴史に相当する時期がない。どこをどう取り繕うともつじつまはあわない。なんてことを考えているのがこよなく好きなんです。楽しかった多治見時代も5年で終了しました。名大に戻って細胞実験の日々が続きます。6-7年の間まるっきり本が読めません。本が読める余裕が出てくるのは藤田に移って少し経ってからのことです。

藤田に移ってまず感心したのが文献コピーがただなんです。毎日診察ですし、治療患者さんも左程多くないので診察室でコピーした文献を読み続けました。おかげで学会のネタを思いついては海外学会に出かけました。ほぼ毎年 ESTRO（欧州放射線腫瘍学会）に行きました。ところが ESTRO のほうがバルセロナとアムステルダムに固定されてしまい面白くなってきました。英語も基礎からしっかり勉強しなおす時間もとれるようになりました。スペイン語もちょっと、アラビア語もということをつまみ食いしていましたが勿論ものにはなりません。もっとしっかり歴史を勉強しようということで、そだ大学に行こうと決心しました。青春の夢よ再び、てなもんで京都大学文学部大学院を受験しましょうと電話を掛けました。試験は漢文の試験と論文審査ですとのことでした。論文ってもちろん東洋史の論文ですよ、聞きもしませんでしたが当然ですわね。相手は卒論でいいですよと気楽な返事でした。恐る恐る文学部卒業でないので歴史関係の論文がないのですがどうしたらと聞きましたところなんでもいいですのでテーマを決めて論文を書いて提出してください、と当たり前とも思える返事でした。あの、どのくらいの長さがとの問いには、原稿用紙 70-100 頁程度で結構ですとのこと。これはいかん、誰かに指導してもらわなければとても書けない。選択肢は2つ、大学院ではなく大学に入るか、頑張っ論文に挑戦するかです。京都大学文学部はどれくらいで入れるのかわかりませんが調べたところ偏差値が 70 くらい数学も理科も英語も国語も社会もある、かなりぼけてきたこの頭では何ともなりそうもないことには確信がある。通信教育という手もあるのであれこれと探してみました。国立はないので私立で文学部東洋史学科通信制があるところ。放送大学？奥様がやっていますが教養課程を 4 年やっているみたいで大学院審査に提出できるような論文が書けるかしらもう一つ心配。スクーリングに通うので、できれば近くと思い調べてもなんと愛知岐阜三重にはない。佛教大学が今のところ第一候補ですが何せそれなりの費用が掛かる。その上私は佛教が生理的に合わないというかキリストにあなた以外の神を神として拝みませんと誓ってしまっていて授業といえども仏様を礼拝できない。なくなった方は礼拝しますが神社仏閣といえども礼拝していません。申し訳ないとは感じていますがなんとなく破約できずにいます。もう一つの選択肢の頑張っ論文を書くほうとして、漢文の勉強と中国語の勉強を始めました。原書を読んでみようというわけです。NHK ラジオ講座ですので費用はお安い。論文書きのため名古屋大学の東洋史研究会に入会しました。京都大学のほうは以前から会員でしたが。ここ数年歴史と語学の勉強で文学とやや離れていました。来年 3 月に定年ですが雇ってくれるところがあり通勤生活が続きます。通勤は

電車通勤にして本を読もうかなと今は思ってますが、寒さに弱く冬がくるとやはり車よねとすぐひよってしまいます。囲碁は全国大会に行ったし、数学の論文も書いた、やはり歴史は捨てがたいので論文を1編書きたいな。中学の時親に頼んで買ってもらった54編の世界文学全集全巻読破はしておきたいし。そして名刺に（私はプルーストを読みました）なんてかっこよく決めたいし。

（藤田保健衛生大学医学部教授）